

Topics

トピックス

2019
6/24(月)

れきはくメイト初夏の歴史散歩

前田家ゆかりの寺 一妙成寺をめぐる

歴史博物館注目のニュースをご紹介します!

今回は羽咋市の妙成寺へ。前田家3代利常によって整備された伽藍が今も残り、その多くが重要文化財に指定されています。また、前田利常の生母である寿福院や、加賀騒動で有名な大槻伝蔵といった、加賀藩を知るうえで欠かせない人物の墓もあります。当日は五重塔をはじめとした建築物や、普段は見学できない書院や庭園を見学し、生母の菩提所の整備に尽力した3代利常に思いを馳せていました。



藩主と妙成寺貫首しか立ち入りできなかった書院内部に興味津々...

「れきはくメイト(友の会会員)」募集中!

歴史散歩・バスツアーへの参加や入館料割引など、さまざまな特典があります

詳しくは当館まで

次回展覧会のお知らせ

Upcoming Exhibition

珠洲古陶

— その歴史と美 —



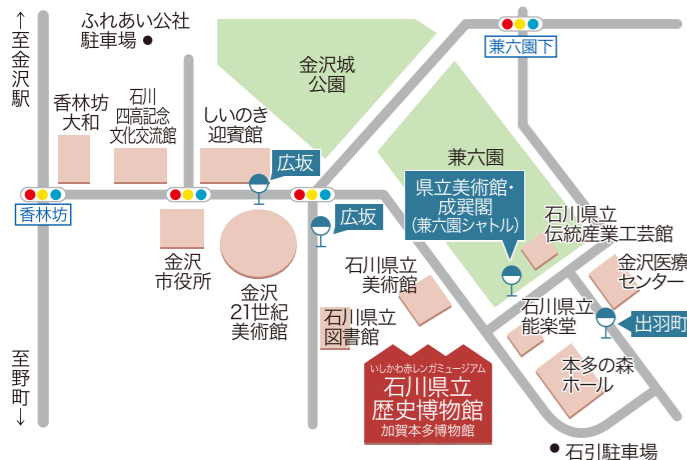
珠洲秋草文壺 本館蔵 石川県指定文化財

珠洲焼は、平安時代末期の12世紀に誕生した中世日本を代表するやきものです。それは、古代須恵器の「燻べ焼き」と呼ばれる焼成技術を受け継ぐことから「中世の須恵器」とも言われ、灰黒色に焼しめられた堅牢で堂々とした豪快な造りと、櫛目文などのゆかしい装飾を駆使する様式美に特徴があります。

その製品は、人びとの生活に欠かせない壺・甕・播鉢を主力商品にして北東日本海沿岸域に販路

を広げ、太平洋側の常滑・渥美焼と商圏を二分しました。しかし、戦国時代の15世紀末には、その主役の座が越前焼にとって代われ忽然と姿を消しました。

本展では、開館30周年を迎える珠洲市立珠洲焼資料館とも連携し、そうした活力に満ちた珠洲古陶の歴史と美の系譜を辿るとともに、その再興に取り組む現代作家の作品も展示し、工芸王国石川の一翼を担ってきた陶芸史の一端を紹介します。



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL:076-262-3236 FAX:076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/



石川県立歴史博物館 広告

「石川 れきはく」

に広告を掲載して **PR** サービス・集客 しませんか?

れきはくメイト(友の会)会員、学校、博物館、図書館、その他公共施設へ **配布!!**

ターゲットを狙った **知名度向上**
石川県立歴史博物館の **信頼度の高い 広報媒体**

お問い合わせは **株式会社ホープ** ☎092-716-1401
福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.131
2019.9.4

太刀 助守
北野天満宮蔵



加賀前田家と 北野天満宮

2019
9/14 土
~**11/4** 月・振

令和元年度
秋季特別展

加賀前田家と北野天満宮

令和元年度
秋季特別展

2019
9/14(土)~11/4(月) 51日間

9:00~17:00 (展示室への入室は16:30まで)

前期 9月14日(土)~10月6日(日)

後期 10月8日(火)~11月4日(月・振)

10月7日(月)は展示替えのため閉室

観覧料 / 一般800(640)円、大学生640(510)円、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金、65歳以上は団体料金
特別展・常設展セット券 一般880円、大学生700円

主催 / 石川県立歴史博物館 特別協力 / 北野天満宮・公益財団法人前田育徳会・北國新聞社

学芸員による
展示解説

申込不要 / 要観覧料

9/15(日) 10/5(土) 10/22(火・祝)

いずれも13:30~14:30

場所:特別展示室・企画展示室

その他の関連イベントは
当館HPまたはチラシを
ご覧ください

[展示構成]

プロローグ | 利家と天神さん

第1章 | 前田家のルーツをさぐる

第2章 | 前田家と北野天満宮

第3章 | 小松天満宮の創建

第4章 | 金沢の天神さん

エピローグ | 受け継がれた伝統

01 北野天神信仰の真髄に迫る

北野天満宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻(承久本)」のうち、巻第一(後期)・巻第二(前期)の二巻を特別にご出品いただきます。巻第一では菅原道真公が父と初めて対面する場面、巻第二では道真公が弓射の妙技を披露する場面を展示いたします。また、道真公が大宰府へと左遷される船出の場面(巻第四・前期)と道真公の怨霊が雷神と結んで清涼殿に雷を落とす場面(巻第五・後期)は平成記録本(複製本)を展示いたします。



北野天神縁起絵巻 巻第二 北野天満宮蔵 国宝

02 天神没後50年毎に行われてきた万灯会

この錦絵には嘉永5年(1852)に行われた万灯会にぎわう北野天満宮が描かれています。境内の仮小屋に棚を設けて無数に並べられているのが天神さんに奉納された灯明です。江戸時代に奉納された前田家の太刀は、50年毎に行われた天神御忌・万灯会の年に奉納されたものです。

京都北野天満宮一万灯会之図 北野天満宮蔵



本展は、学問の神様として知られる菅原道真公を祀る京都の北野天満宮と、江戸時代に加賀・能登・越中三国を治めた加賀前田家との関係に迫る初めての試みです。

前田家が菅原姓を称し、家紋に梅鉢紋を用いたことは周知の事実ですが、前田家および当地と北野天満宮がどのような関わりを持っていたのか、ということについては十分に検討されてきませんでした。そこで、平成29年(2017)より北野天満宮に伝わる前田家関係資料、前田家に伝わる天神関係資料、石川県内の天満宮等に伝わる文化財の調査を実施したところ、新たな文化財の発見とともに、これまで知られていなかった歴史的事実が浮かび上がってきました。今回特別に出展いただいた北野天満宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」のほか、天神御忌にあわせて前田家が北野天満宮に奉納した太刀をはじめ、前田家と北野天満宮との関わりを示す貴重な文化財が多数展示されます。本展を通じて、北野天満宮(天神)と当地とのつながりの深さを感じていただけたら幸いです。

03 太刀奉納によって結ばれた前田家と北野天満宮

本展の一番の見どころは、何といても前田家が北野天満宮に奉納した太刀五振です。五代綱紀以来、前田家と北野天満宮は太刀奉納によって結ばれ、その信仰は歴代藩主に受け継がれました。江戸時代の奉納太刀の装飾品は、白銀師・水野源六をはじめとする加賀の職人たちの工芸技術を結集させて作られました。



太刀 銘 恒次 附金梨地糸巻太刀拵 北野天満宮蔵 重要文化財

05 絵解き絵馬に描かれた北野天満宮

金沢二十五天神の一つである瓢箪町の崇禅寺には天神縁起絵馬が二面伝わっています。いずれも絵解き用の絵馬で、このうちの一面には北野天満宮が描かれています。境内に法華堂や多宝塔、経蔵が確認できることから、神仏分離以前、江戸時代後期の景観を描いたものと考えられます。金沢の人々がこうした絵解きを通じて藩主の崇敬する天神についての知識を受容し、信仰していたことがうかがえる興味深い資料です。



天神縁起絵馬(部分) 崇禅寺蔵

04 連歌の宗匠・能順が強めた前田家と北野天満宮の絆

三代利常が加賀小松に創建した小松天満宮の初代別当は、北野天満宮の宮仕・能順(1628-1706)がつとめました。小松天満宮創建は能順の父・能舜と利常との関係によって実現したもので、能順は元禄15年(1702)の天神800年御忌における太刀奉納では宿坊として北野天満宮との仲介役をつとめています。また、当時を代表する連歌師であった能順が連歌を加賀藩士や小松の町人に広めたことは、加賀の文芸にも影響を与えました。



能順画像(部分) 小松天満宮蔵

学芸員コラム Column

学芸員 ってなんだろう？

学芸主幹兼資料課長 濱岡 伸也



▲家ごとに整理された古文書は、専用の箱に入れて保存される。(箱が壁を為す収蔵庫のなか)

大学・大学院を通して、近世の社会経済史(村の人たちが米を作り、年貢を納め、どうやって生活していたか)を学んできたのですが、それ自体は展示には向きません。古文書を何百通解読しても、展示できるものはほとんど無く、グラフの一つも作ればOKで終わってしまうことが多いのです。その一方で、「お前は近世担当だから」という先輩方々からの“あたたかい”お言葉をいただき、農具、掛け軸、典籍、屏風から刀、鎧、やきものなどなど、いろんな資料を取り扱ってきました。その結果、どんな資料でも、状況に応じて対応できるようになりました。そして今では仕舞屋さんようになっています。

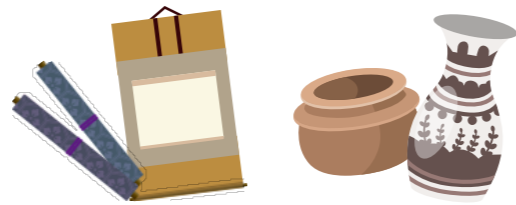
「もし歴博で役に立つものがあったら寄附するので、一回見てもらえませんか？」そんなお電話をいただくことが多くなりました。そんな時は、日程を合わせてなるべく訪問するようにしています。その時繰り返して質問されるのが、民具や武具などの器物類ならば「これは何？」「いつ作った？」「どんな時に使った？」、古文書や掛軸などは「何て書いてある？」「家に関係するものか？」「どうすればいい？」などなど。

こんな時どうだと思いますか？また、どうするのが正解なのでしょう？

「これとこれは博物館で寄附を受け付けることが出来ます。あとは、ご家族やご親戚の方で記念にもらうという方にお分けし、残りは自治体の区分に従って処分されてもいいと思いますよ。」これなら合格点でしょうか？でも、これだとなんか違うような、足らないような気がするんです。声をかけてこられた方は、「それが何なのか」「何が書いてあるのか」そこが分かれば自分で判断ができるかもしれません。そのため、見せていただいた資料については、まずどんなものかをお話するようにしています。それでも決めかねているようなら一緒に考え、最善の道を探ります。

歴史博物館では、その家について古文書や家業にかかわる看板、仕事着や道具などは、受け入れる方向で考えています。長年かかって買い集めたものとなると判断が分かれます。書画骨董で作者・筆者が北陸に関係する場合はいいのですが、それ以外は売却を含めて色々な方法が考えられるので、そこをお話して一緒に考えます。ご先祖個人にかかわる史料については菩提寺で御焚き上げをお願いしてはと勧め、自治体の決まりに沿ってゴミとして処分すればいいかがですかと提案します。

近年、「終活」などと称して残った者が困るからと身の回りを軽くするようになると煽るような動向もありますが、自分は嫌いです。残したいもの、側に置いておきたいものがあるのはいいことです。その「現在を楽しむために」身軽になろうと行う「断捨離」なら、胸を張って捨てていいですよ。



教育プログラム

Educational Program

楽しく学べる企画をご用意しています！

学芸員の卵たち!? 職場体験

近年ではキャリア教育の必要性が高まり、学校教育の段階で仕事の現場に触れる機会が増えています。そのうちのひとつに中学生の「職場体験」があります。実は当館でも職場体験を受け入れており、今年も2校の生徒が職場体験をしました。今回はその時の様子をレポートします。

まずは近隣への広報活動から。最近ではHPやSNSをはじめとしたインターネットによる広報が重要になってきていますが、チラシやポスターの効果もまだまだ大きく、商店街やホテルなどへの配付は欠かせません。生徒たちは、最初は慣れない活動や初対面の大人たちとの会話で緊張する場面が目立ちました。しかし、経験を重ねるにつれて挨拶の要領を覚えると話し方もしっかりとしたものになり、自信をもって広報ができるように成長していました。

続いては資料の展示替えです。今回は、当館の歴史体験ひろばにある「はてなボックス」を担当してもらいました。生徒は資料の基本的な扱い方を学んだ後、実際にボックス内に入れる資料を選んでいきます。大量の資料の中から2つ選ぶのですが、「どんな資料が入っていたら来館者は面白いかな」を考えると案外候補は絞られてきます。生徒たちも実物の資料に緊張しながらも、実際にボックスの中に資料を入れながら、来館者の気持ち

ちになって資料を絞り込んでいました。

最後はワークショップの事前試作。一見すると楽しい時間ですが、一方で運営側・参加者それぞれの立場になって考えることで改善点や課題を洗い出す大切な時間でもあります。生徒たちは楽しくも真剣に取り組んでいた様子で、「ここは～の方がやりやすい」「この素材は～かな」と、実際の運営で大切な意見がいくつも出てきていました。

「博物館の仕事」というと、「展示」や「研究」といった仕事がよくイメージされるかもしれませんが、しかしその一方で、街中を歩きまわっての広報活動やイベントの下準備といった「表に見えにくい仕事」もたくさんあります。今回の職場体験が仕事のやりがいや大変さを実感するとともに、自分の将来について考えてみる機会になればと思います。3日間お疲れ様でした。(普及課 野村 将之)

外に出るの地道な活動も博物館の大切な仕事なのです



生徒たちが選んだ資料は何でしょう？

正解は「歴史体験ひろば」!

催し物案内

Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。(各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。)

10月

25日(金) 学芸員によるワンポイント解説
難船絵馬
—お礼参りが大切な金毘羅さん—
講師：戸潤 幹夫(学芸主幹)

26日(土) れきはくゼミナール
加賀前田家による
京都北野社への太刀奉納
講師：塩崎 久代(学芸主任)

12月

20日(金) 学芸員によるワンポイント解説
当屋祭りとは月祭り
講師：大門 哲(学芸課長)

21日(土) れきはくゼミナール
古代の玉文化と碧玉製品
講師：三浦 俊明(学芸主査)

11月

休館日 11/5(火)・11/6(水)

9日(土) れきはくゼミナール
三代の石川景和と改租事業
講師：石田 健(学芸主任)

22日(金) 学芸員によるワンポイント解説
堅田館のお正月
講師：岡崎 道子(学芸員)

1月

休館日 1/1(水)~1/3(金)、1/30(木)~1/31(金)

18日(土) れきはくゼミナール
石動山信仰
講師：岡崎 道子(学芸員)

24日(金) 学芸員によるワンポイント解説
「美術工業」の時代
講師：石田 健(学芸主任)

学芸員によるワンポイント解説 全11回

要観覧料/申込不要 時間 13:30~14:00 場所 展示室
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。

れきはくゼミナール 全11回

受講無料/申込不要 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。(3月は月2回)

古文書講座 前期5回・後期2回

受講無料/要申込 時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。

いしかわ県民大学校歴史講座 全10回

要受講料/要申込 日時 11月~1月の水曜日 13:30~15:30
申し込み手続きは10月1日から(電話ではお申し込みいただけません)